The essentials of imaging

bizhub 423/363/283/223

ユーザーズガイド　拡大表示機能編

もくじ

1 はじめに

2 ご使用いただく前に

3 コピー機能の使いかた

4 ファクス / スキャン機能の使いかた

5 音声ガイド機能の使いかた

6 索引

1 はじめに

1　はじめに

1.1　ご挨拶

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

このユーザーズガイドには、本機の機能と操作方法、使用上のご注意、簡単なトラブルの処理方法などについて記載しています。本機の性能を十分に発揮させて、効果的にご利用いただくために、必要に応じてこのユーザーズガイドをお読みください。

1.1.1　マニュアル体系について

印刷物のマニュアル	概要
[すぐに使える操作ガイド]	すぐに本製品をご利用いただけるよう使用頻度の高い機能や操作方法を紹介しています。
[安全にお使いいただくために]	本製品を安全にお使いいただくために守っていただきたい注意事項とお願いを記載しています。 製品のご使用前に必ずお読みください。

ユーザーズガイド CD 収録のユーザーズガイド	概要
[ユーザーズガイド コピー機能編]	コピーの機能や本機の設定について記載しています。 ・ 原稿、コピー用紙の仕様 ・ コピー機能 ・ 本機のメンテナンス ・ トラブルの対処方法
[ユーザーズガイド 拡大表示機能編]	拡大表示機能の操作について記載しています。 ・ コピー機能 ・ スキャナー機能 ・ G3 ファクス機能 ・ ネットワークファクス機能
[ユーザーズガイド プリンター機能編]	プリンター機能について記載しています。 ・ プリンター機能 ・ プリンタードライバーの設定
[ユーザーズガイド ボックス機能編]	ハードディスクを利用したボックス機能について記載しています。 ・ ボックスへのデータ保存 ・ ボックスからのデータの取出し ・ ボックスからのデータの印刷、転送
[ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編]	スキャンしたデータの送信方法を記載しています。 ・ E-mail 送信、FTP 送信、SMB 送信、ボックス保存、WebDAV 送信、Web サービス ・ G3 ファクス ・ IP アドレスファクス、インターネットファクス
[ユーザーズガイド ファクスドライバー機能編]	コンピューターから直接ファクス送信を行うファクスドライバー機能について記載しています。 ・ PC-FAX
[ユーザーズガイド ネットワーク管理者編]	ネットワークを利用した各機能の設定方法を記載しています。 ・ ネットワークの設定 ・ PageScope Web Connection を使用した設定

ユーザーズガイド CD 収録のユーザーズガイド	概要
［ユーザーズガイド 拡張機能編］	オプションのライセンスキットでご利用いただける機能、およびアプリケーションと連携することでご利用いただける機能について記載しています。 ・ Web ブラウザー機能 ・ イメージパネル ・ PDF 処理機能 ・ 音声ガイド機能 ・ サーチャブル PDF ・ My パネル、My アドレス機能
［商標 / ライセンスについて］	商標およびライセンスについて記載しています。 ・ 商標、著作権について

1.1.2 ユーザーズガイドについて

このユーザーズガイドは、本機を初めてご利用になるお客様から本機を管理する管理者までを対象としています。

本機の基本的な操作方法、より便利にお使いいただくための機能、メンテナンス方法、簡単なトラブルの対処方法、その他本機のさまざまな設定方法について説明しております。

なお、メンテナンスやトラブルの対処には、製品についての基本的な技術知識が必要です。メンテナンスやトラブルの対処は、本書で説明している範囲内で行ってください。

お困りの際には、サービスエンジニアにご連絡ください。

1.2　ページの見かた

1.2.1　本文中の記号について

本書では、様々な情報を記号で記載しています。

ここでは、製品を正しく安全にお使いいただくために、本書で使用している記号について説明します。

安全にお使いいただくために

⚠ 警告

- この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

- この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

重要

本機や原稿に損害をあたえる可能性が想定される内容を示しています。
物的損害を避けるために指示に従ってください。

手順文について

✔ このチェック記号は、手順の前提となる条件や機能を使用するときに必要なオプションを説明しています。

1　このスタイルの 1 は、最初の手順を表します。

2　このスタイルの番号は、連続する手順の順番を表します。

➔ この記号は、手順文の補足的な説明を表します。

手順の動作を
イラストで
表しています。

→ この記号は、目的のメニューにアクセスする**操作パネル**の遷移を表します。

目的の画面を表示しています。

参照
参照先を表しています。

必要に応じてごらんください。

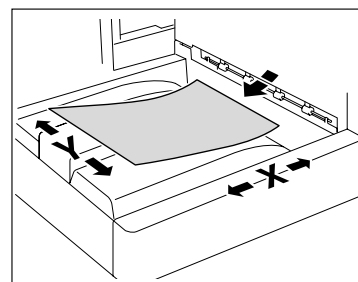
キー記号について

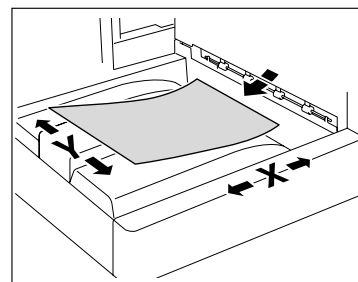
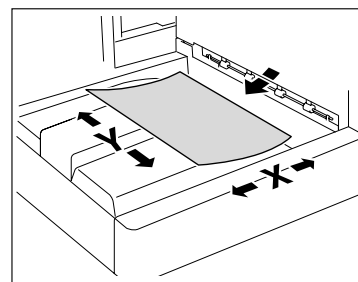
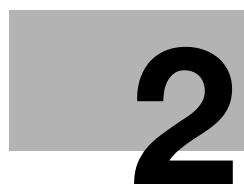
[ ]
タッチパネル上のキー名称、コンピューター画面上のキー名称、ユーザーズガイド名称などを表します。

文中の太字
操作パネル上のキー名称、部品名称、製品名、オプション名などを表します。

1.2.2　原稿と用紙の表示について

原稿と用紙の大きさ

本文中に出てくる原稿と用紙の表示について説明します。
原稿と用紙の大きさを表す場合、Y 辺を幅、X 辺を長さと呼びます。

原稿と用紙の表示

幅（Y）よりも長さ（X）のほうが大きいものを ▭ と表示します。

幅（Y）よりも長さ（X）のほうが小さいものを ▯ と表示します。

2 ご使用いただく前に

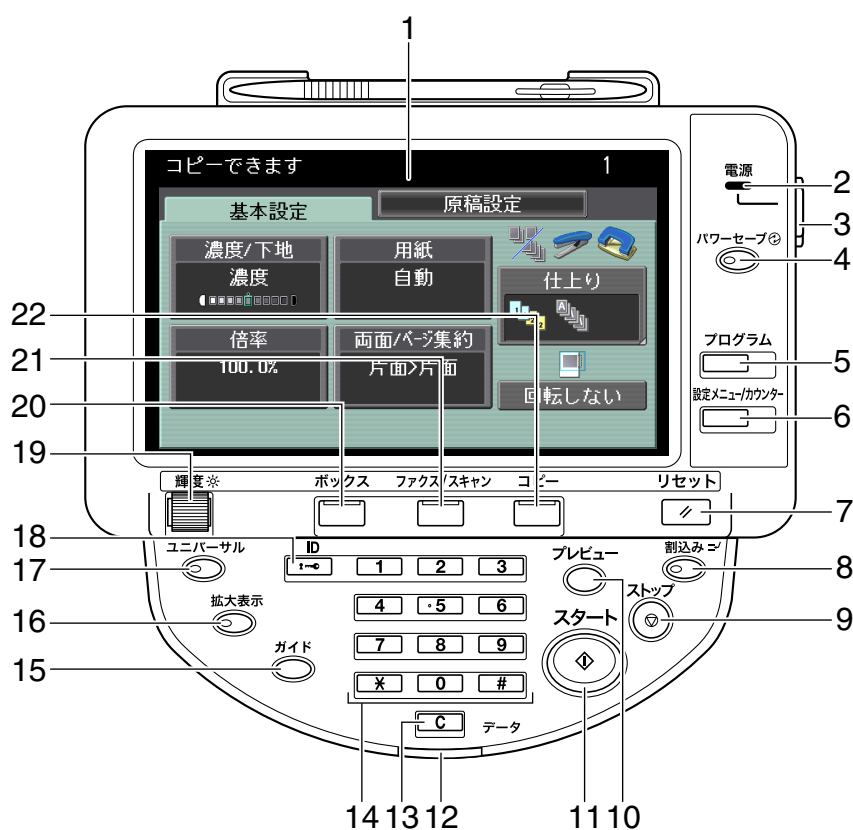
2 ご使用いただく前に

本機を使用する前に知っておきたいことがらについて説明します。

2.1 操作パネルと機能

本機の設定は、タッチパネルで行うものと操作パネルのハードキーで行うものがあります。ここでは、操作パネルのハードキーで行う、拡大表示の設定や操作について説明します。タッチパネルでの設定については、「3 コピー機能の使いかた」、「4 ファクス / スキャン機能の使いかた」をごらんください。

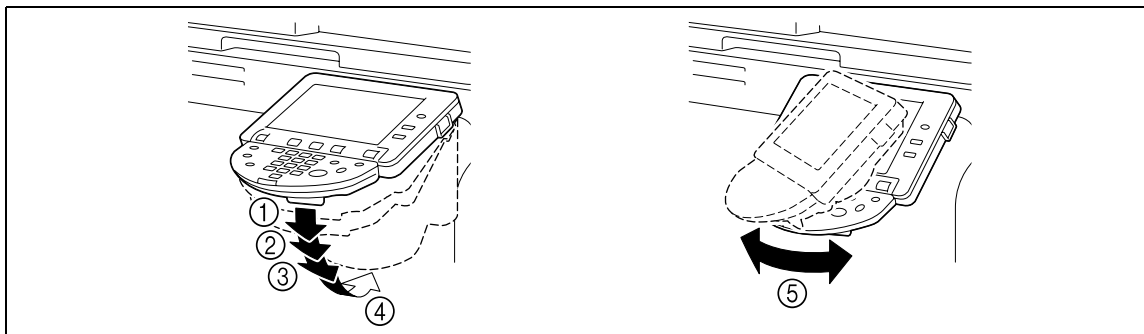
参照

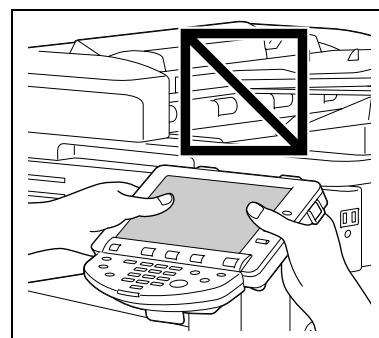
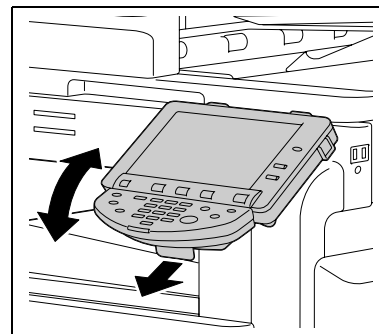
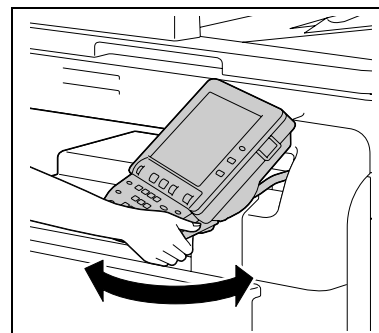
操作パネルの名称とはたらきについて詳しくは、[ユーザーズガイド コピー機能編]、[ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編] をごらんください。

概要			参照
1	**タッチパネル**	各設定画面やメッセージが表示されます。**タッチパネル**に直接タッチして各設定を行うことができます。	「3 コピー機能の使いかた」、「4 ファクス / スキャン機能の使いかた」
2	**電源ランプ**	**主電源スイッチ**が ON のときに青色に点灯します。	—
3	**副電源スイッチ**	本機の動作を ON/OFF します。OFF のときは節電状態となります。	—
4	**パワーセーブ**	パワーセーブ機能に切換わります。パワーセーブ機能中は**パワーセーブ**が緑色に点灯し、**タッチパネル**の表示が消えます。パワーセーブ機能中に**パワーセーブ**を押すとパワーセーブ機能は解除されます。	—

概要			参照
5	**プログラム**	登録されたファクス／スキャン条件を呼出すことができます。	p. 2-7
6	**設定メニュー / カウンター**	設定メニュー画面、セールスカウンター画面に切換えることができます	p. 2-6
7	**リセット**	**操作パネル**、または**タッチパネル**で入力した全ての設定（登録した設定は除く）をリセットできます。	p. 2-5
8	**割込み**	拡大表示画面では使用しません。	—
9	**ストップ**	コピー、スキャン、印刷中に動作を一時停止できます。	p. 2-5
10	**プレビュー**	複数部数のコピーを行うとき、先に 1 部のみ印刷して仕上りを確認できます。	p. 2-12
11	**スタート**	コピー、スキャン、ファクスなどの動作を開始できます。	p. 2-5
12	**データランプ**	印刷ジョブを受信中は、青色に点滅します。印刷ジョブが印刷待ち、および印刷中は、青色に点灯します。未出力のファクスデータ、蓄積されたファクスデータがある場合は青色に点灯します。	—
13	**C**（クリアー）	**テンキー**で入力した数値（コピー部数、倍率など）を取消すことができます。	p. 2-11
14	**テンキー**	コピー部数の設定や倍率の入力、ファクス番号の入力などができます。 本機にオプションの i-Option LK-104 が登録され、音声ガイド機能が有効な場合、音声ガイド使用中に様々な操作ができます。	p. 5-5
15	**ガイド**	拡大表示画面では使用しません。本機にオプションの i-Option LK-104 が登録され、音声ガイド機能が有効な場合、音声ガイドの開始と終了に使用できます。	p. 5-4
16	**拡大表示**	拡大表示画面／標準サイズの画面に切換えることができます。PageScope Authentication Manager にて認証を行っている場合、拡大表示画面に切換わりません。	p. 2-10
17	**ユニバーサル**	ユニバーサル機能の設定画面に切換わります	p. 2-8 p. 5-2
18	**ID**	ユーザー認証または部門管理を設定している場合、ユーザー名とパスワード（ユーザー認証）、部門名とパスワード（部門管理）を入力したあとにこのキーを押すと本機が使用できるようになります。	p. 2-10
19	**輝度**調整ダイヤル	**タッチパネル**の輝度の調整ができます。	—
20	**ボックス**	拡大表示画面では使用しません。	—
21	**ファクス / スキャン**	ファクス機能、スキャナー機能に切換わります。ファクス機能、スキャナー機能中は**ファクス / スキャン**が緑色に点灯します。	p. 2-6
22	**コピー**	コピー機能に切換わります。（初期設定ではコピー機能が選択されています。）コピー機能中は**コピー**が緑色に点灯します。	p. 2-5

操作パネルの角度のかえかた

本機の**操作パネル**は、上下 4 つの位置に設定できます。また、左に傾けることもできます。

使いやすい位置を選んでご使用ください。

重要

タッチパネルを直接持った状態で、**操作パネル**の左右位置を調節しないでください。

➔ **操作パネル解除レバー**を手前に引き、ゆっくりと**操作パネル**を上下させます。

➔ **操作パネル**を傾ける場合は、**操作パネル**下部を持って左右位置を調整します。

タッチパネルの操作

タッチパネルに表示されたキーに指や**スタイラスペン**で軽くタッチし、表示されている機能を選択します。

重要

タッチパネルに強い力を加えると、**タッチパネル**に傷が付いて破損の原因となります。**タッチパネル**を強く押したり、先のとがったシャープペンシルなどで押したりしないでください。

2.1.1 スタート、ストップ、リセットについて

スタート

➔ **スタート**を押します。

コピー、スキャン、ファクスなどの動作が開始されます。また一時停止中のジョブが再開されます。

➔ 本機が処理を開始できる状態の場合は、**スタート**が青色に点灯します。
スタートがオレンジ色に点灯している場合は、動作を開始できません。画面の警告やメッセージを確認してください。

ストップ

➔ コピー、スキャン、印刷中に**ストップ**を押します。

動作が一時停止されます。

➔ 一時停止中のジョブを再開するには**スタート**を押します。

➔ 一時停止中のジョブを削除するには、停止中ジョブ画面でジョブを選択し、[削除実行] を押します。

リセット

➔ **リセット**を押します。

初期設定に戻り、基本設定画面が表示されます。

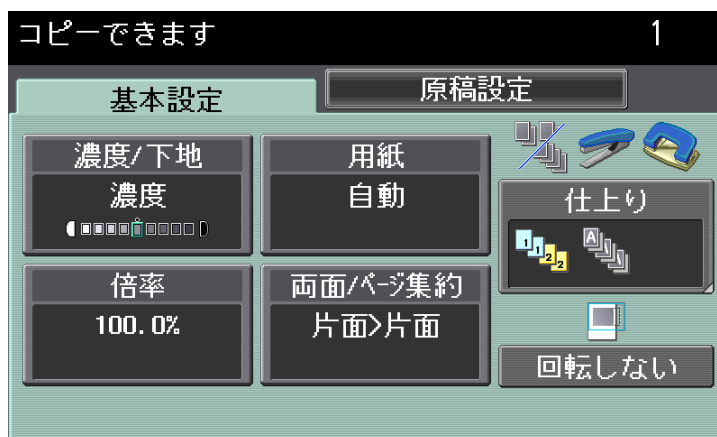
➔ **操作パネル**や**タッチパネル**で入力した設定が取消されます。登録した設定は取消されません。

2.1.2 コピー、ファクス / スキャンについて

目的の操作に合わせて機能を選択します。選択した機能のキーランプが緑色に点灯します。

コピー

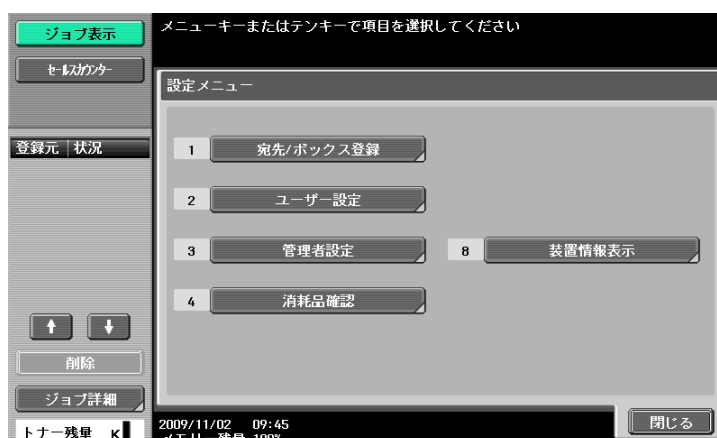
➔ **コピー**を押し、本機をコピー機能の状態に切換えます。

コピーの基本設定画面が表示されます。

ファクス / スキャン

➔ **ファクス / スキャン**を押し、本機をファクス / スキャン機能の状態に切換えます。

ファクス / スキャンの基本設定画面が表示されます。

2.1.3　設定メニュー / カウンターについて

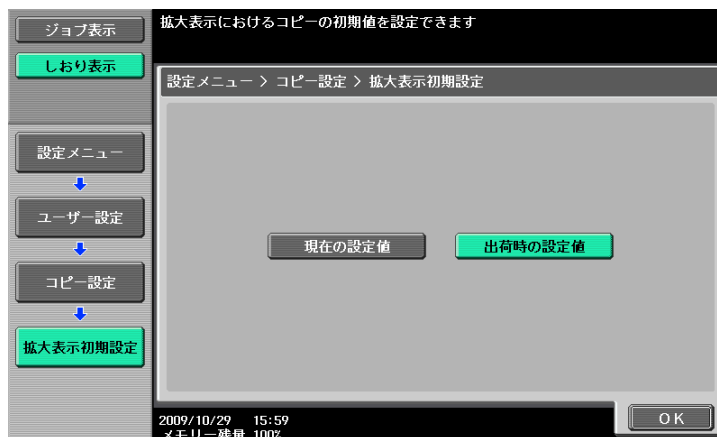
設定メニュー / カウンターを押すと設定メニュー画面が表示され、本機の設定や使用状況の確認ができます。

［ユーザー設定］で拡大表示に関する初期値を設定できます。

［拡大表示初期設定］

コピー機能またはファクス / スキャン機能の初期値を設定します。

✔ 設定する機能の拡大表示画面を表示させ、あらかじめ設定を行います。

➔ 設定する機能の拡大表示画面を表示させ、**設定メニュー / カウンター** ▸▸［ユーザー設定］▸▸［コピー設定］または［ファクス / スキャン設定］▸▸［拡大表示初期設定］を押します。

<［コピー設定］の場合>

設定

［拡大表示初期設定］	［現在の設定値］	**設定メニュー / カウンター**を押す前にあらかじめ行った設定値が、コピー機能またはファクス / スキャン機能の初期設定に登録されます。
	［出荷時の設定値］	出荷時の設定値がコピー機能またはファクス / スキャン機能の初期設定に登録されます。

参照

拡大表示初期設定は、ユニバーサル画面からも設定できます。詳しくは 2-8 ページをごらんください。

2.1.4　プログラムについて

ファクス / スキャンの画面を表示させ**プログラム**を押すと、送信先や読込み設定などがまとめて登録された、ファクス / スキャンプログラムを呼出すことができます。いつも決まった条件で送信する場合に便利です。

✔ 標準画面であらかじめプログラムを登録しておく必要があります。
✔ プログラムの登録について詳しくは、［ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編］をごらんください。

➔ ファクス / スキャンの画面を表示させ**プログラム**を押します。

設定

［ファクス / スキャンプログラム呼出し］	目的のプログラムを選択します。プログラムの選択は 1 件です。
［ページ一覧］	表示するページを選択します。
［前ページ］	表示されている前後のページに移動します。
［次ページ］	
［トップ画面へ］	変更された設定で基本設定画面に戻ります。

参照

選択したプログラムに、宛先を追加することもできます。宛先の追加については、4-4 ページをごらんください。

2.1.5　ユニバーサルについて

ユニバーサルを押すと、**操作パネル**に関する設定の変更や、**タッチパネル**の調整ができます。

➔ **ユニバーサル**を押します。

設定

［タッチパネル調整］	**タッチパネル**のキーを押しても正常に反応しないときは、**タッチパネル**のキー表示位置と実際のタッチセンサーの位置がずれている可能性があります。 **タッチパネル**の表示位置を調整します。 ・［タッチパネル調整］を押しても反応しない場合は、タッチセンサーと画面が合っていません。**テンキー**の 1 を押してください。 ・タッチパネル調整画面で 4 つのチェックキー［+］をブザー音を確認しながら押します。正しく押されると、**スタート**のランプが青色に点灯します。**スタート**を押します。 ・チェックキー［+］を押す順番は、任意でかまいません。 ・調整をやりなおすときは **C**（クリアー）を押し、4 つのチェックキー［+］を押しなおしてください。 ・**タッチパネル**の調整を中断する場合は、**ストップ**または**リセット**を押します。 ・調整できない場合は、サービス実施店にご連絡ください。
［キーリピート開始 / 間隔時間］	拡大表示画面の**タッチパネル**で同一キーを押し続ける場合に、連続実行がはたらく時間を設定できます。 ［開始までの時間］は、同一キーを押し続けた場合に、最初に連続実行が開始されるまでの時間を設定できます。［間隔時間］は、同一キーの連続実行が開始されたあともそのまま押し続けた場合に、その後連続実行される時間の間隔を設定できます。 **タッチパネル**のキーまたは**テンキー**の 2 を押します。
［システムオートリセット設定解除確認］	拡大表示中にシステムオートリセット機能が動作し、拡大表示が解除される場合に、拡大表示を解除せずにそのまま作業を続けるか、拡大表示を解除して基本設定画面に戻るかを確認する画面を表示できます。 **タッチパネル**のキーまたは**テンキー**の 3 を押します。確認画面を表示する場合は、表示時間を選択します。
［オートリセット設定解除確認］	拡大表示中にオートリセット機能が動作し、設定が初期状態に戻される場合に、現在の設定をリセットせずにそのまま作業を続けるか、設定をリセットするかを確認する画面を表示できます。 **タッチパネル**のキーまたは**テンキー**の 4 を押します。選択画面を表示する場合は、表示時間を選択します。
［拡大表示切換え確認］	**拡大表示**を押し、画面表示を切換える場合に、拡大表示画面で操作できない設定が解除されます。操作できない設定を解除して拡大表示に切換えるか、拡大表示に切換えずにそのまま作業を続けるかを確認する画面を表示できます。 **タッチパネル**のキーまたは**テンキー**の 5 を押します。
［メッセージ表示時間］	詳しくは、［ユーザーズガイド コピー機能編］をごらんください。
［音設定］	詳しくは、［ユーザーズガイド コピー機能編］をごらんください。
［拡大表示初期設定］	拡大表示の初期設定を変更できます。 あらかじめ拡大表示画面で設定を行い、**タッチパネル**のキーまたは［2/2］画面で**テンキー**の 3 を押します。機能を選択し、［出荷時の設定値］または［現在の設定値］を設定します。 ・［拡大表示初期設定］は、拡大表示画面を表示中、**ユニバーサル**を押した場合に設定できます。 ・**ユニバーサル**を押す前に表示していた画面の機能のみ選択できます。 ・ユーザー設定でも初期設定を変更できます。詳しくは 2-7 ページをごらんください。
［音声ガイド設定］	オプションの **i-Option LK-104** が登録され音声ガイド機能が有効な場合に設定できます。詳しくは、［ユーザーズガイド 拡張機能編］をごらんください。

参照

基本設定画面に戻すには、**ユニバーサル**、［閉じる］または**リセット**を押します。

2.1.6 拡大表示について

拡大表示を押すと、**タッチパネル**の表示が大きな文字でレイアウトされた拡大表示画面に切換わります。

➔ **拡大表示**を押します。

拡大表示画面が表示されます。

➔ 標準サイズの画面で設定中に拡大表示に切換える場合、拡大表示画面で操作できない設定は解除されます。

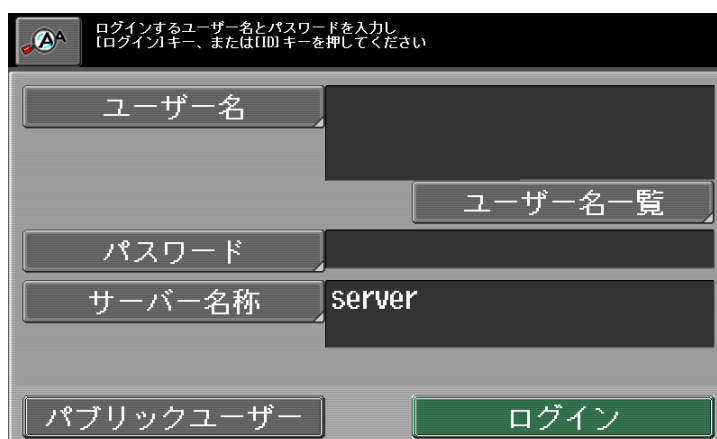
➔ 標準サイズの画面に戻すには、再度**拡大表示**を押します。

アイコン

拡大表示画面では、以下のようなアイコンが表示されます。

	印刷エラーに関するメッセージがあるときに表示されます。キーを押してメッセージを確認し、エラーの処理を行ってください。
	キーを押すと、表示されているメッセージが拡大表示されます。
	消耗品の交換や装置の点検に関するメッセージがあるときに表示されます。キーを押してメッセージを確認し、交換や点検を行ってください。

2.1.7 ID について

本機はユーザーや部門ごとに、本機へのログインを制限できます。管理者設定で認証機能が設定されている場合に、ID を押すとログインやログアウトができます。ログインに必要な項目については、本機の管理者にご確認ください。

認証設定時のログインのしかた

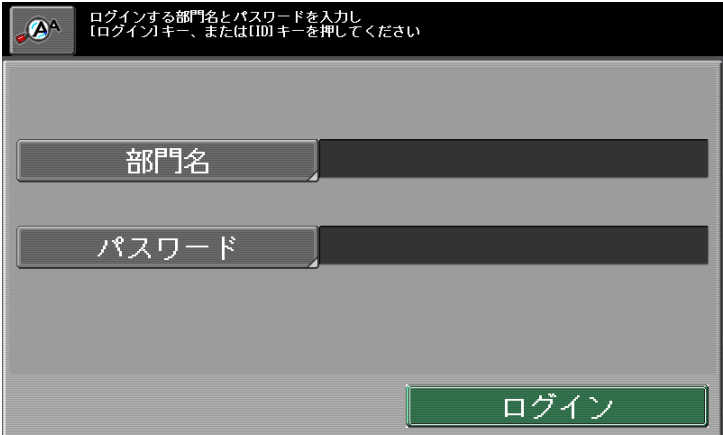
✔ 認証設定によって、表示されるログイン画面が異なります。

✔ オプションの認証装置を使ってログインすることもできます。詳しくは、[ユーザーズガイド コピー機能編] をごらんください。

➔ ログインに必要な項目を入力し、ID を押します。

基本設定画面が表示されます。

＜ユーザー認証＞

＜部門管理＞

設定		
ユーザー認証	ログイン時に認証が行われ、登録された特定のユーザーのみが本機を使用できます。	
	［ユーザー名］	ユーザー名を入力します。
	［ユーザー名一覧］	登録されたユーザーの一覧が表示され、ユーザー名を選択できます。
	［パスワード］	ユーザーパスワードを入力します。
	［サーバー名称］	登録されたサーバーの一覧が表示され、サーバー名を選択できます。
	［パブリックユーザー］	認証なしでログインできます。登録されていないユーザーも本機を使用できます。
	［ログイン］	ID の代わりに［ログイン］を押しても、本機にログインできます。
部門管理	ログイン時に認証が行われ、登録された特定の部門のユーザーのみが本機を使用できます。	
	［部門名］	部門名を入力します。
	［パスワード］	部門パスワードを入力します。
	［ログイン］	ID の代わりに［ログイン］を押しても、本機にログインできます。

参考

- ログアウトするには、ID を押します。
- 認証設定について詳しくは、［ユーザーズガイド コピー機能編］をごらんください。
- 部門管理認証方式で［パスワードのみ］が設定されている場合は、認証画面に［パスワード］のみ表示されます。パスワードが数字のみの場合は、キーボード画面を表示させることなく**テンキー**にてパスワードを入力し、ID または［ログイン］を押すことでログインできます。

2.1.8　C（クリアー）について

C を押すと、**テンキー**で入力した数値が取消されます。

➔ C を押します。

タッチパネルに表示された、現在の入力数値が取消されます。新しく数値を入力できます。

2.1.9　プレビューについて

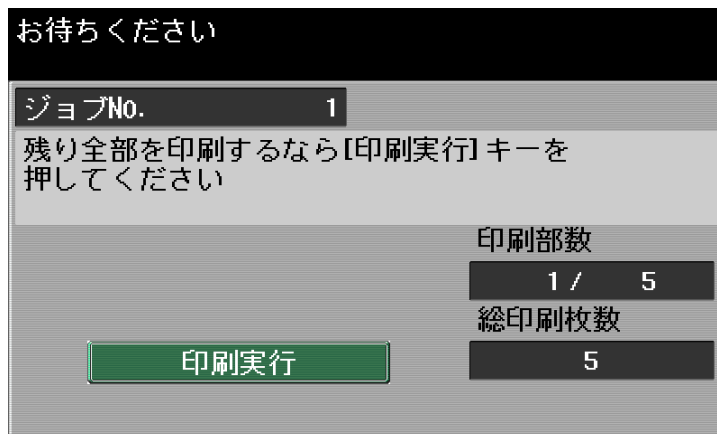
大量のコピーを行う場合に、**プレビュー**を押すと先に 1 部のみ印刷して仕上りを確認できます。印刷の失敗を未然に防ぐことができます。

✔ 複数部数設定した場合のみプレビューできます。

1 原稿をセットします。

2 **プレビュー**を押します。

原稿が読込まれ 1 部印刷されます。

➔ **原稿ガラス**上に原稿をセットした場合は、[読込み終了] ▸▸ **スタート**を押すと、1 部印刷されます。

3 コピー結果を確認します。

➔ コピー設定を変更する場合は、C または**リセット**を押し、設定しなおします。

➔ 残り部数を出力する場合は、[印刷実行] を押します。

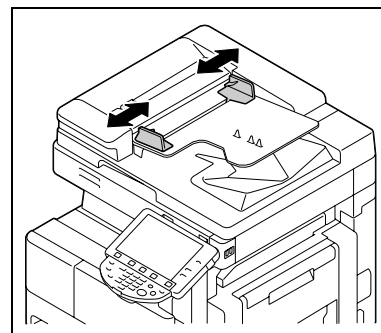
➔ プレビューで確認中にシステムリセットまたはオートリセット機能が作動すると、プレビューのジョブは蓄積ジョブに登録されます。出力のしかたについては、[ユーザーズガイド コピー機能編] をごらんください。

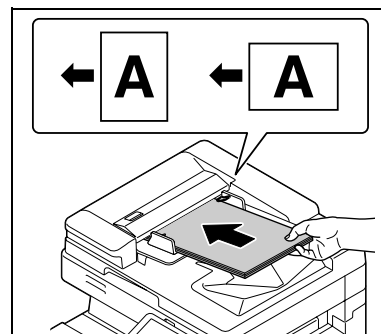
2.2　原稿のセット

原稿は ADF または**原稿ガラス**上にセットします。原稿の種類に合わせて最適な原稿セットを行ってください。

- ADF の場合、複数枚の原稿を上から自動的に 1 枚ずつ送り出し、読込みます。両面原稿も自動的に読込むことができます。
- **原稿ガラス**上の場合、原稿を**原稿ガラス**上に直接セットして読込みます。本などの ADF にセットできない原稿を読込むのに適しています。

ADF に原稿をセットする

1　**ガイド板**を原稿のサイズに合わせます。

2　原稿のオモテ面を上にし、原稿を読込み順に**原稿給紙トレイ**へセットします。

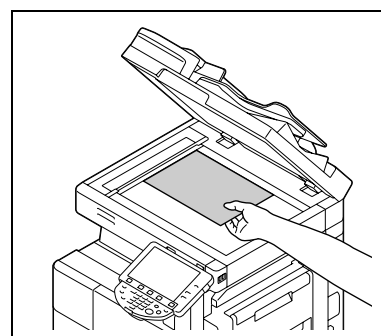
➔ 原稿の天部（上側）が、本機の奥側になるようにします。
➔ 原稿は ▼ マークを超えないようセットします。
➔ 原稿の天部（上側）が奥側以外になる向きでセットした場合は、必ず原稿のセット方向を設定してください。

3　**ガイド板**を原稿に沿わせます。

原稿ガラス上に原稿をセットする

1　ADF または**オリジナルカバー**を 20°以上開きます。

➔ 20°以上開けずに原稿をセットすると、原稿のサイズが検出されない場合があります。

2　原稿のオモテ面を下にして、原稿を**原稿ガラス**上にセットします。

➔ 原稿の天部（上側）が、本機の奥側または左側になるようにします。
➔ **原稿スケール**左奥側の ➘ マークに合わせて原稿をセットします。
➔ 透明度の高い原稿をセットする場合は、原稿と同じサイズの白紙を原稿の上に重ねます。

3　ADF または**オリジナルカバー**を閉じます。

参照
原稿のセットや ADF にセットできない原稿について詳しくは、［ユーザーズガイド コピー機能編］をごらんください。

3 コピー機能の使いかた

3　コピー機能の使いかた

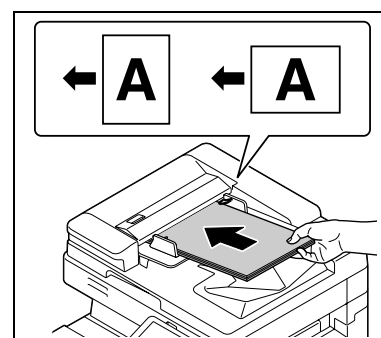
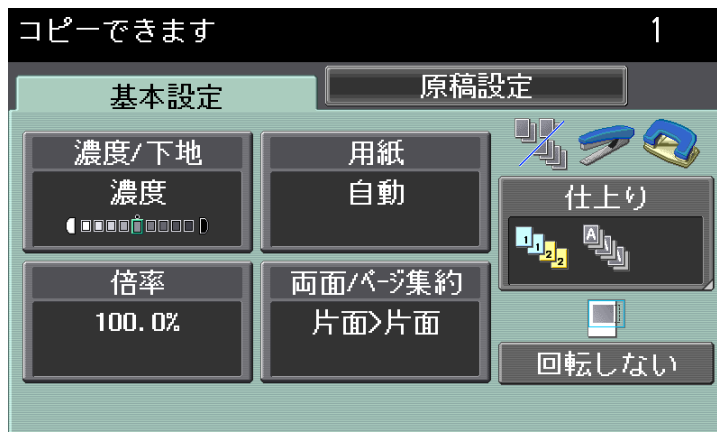
拡大表示画面での、基本的なコピーのとりかたについて説明します。

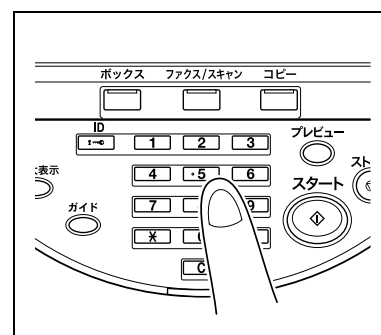
参照
コピー操作について詳しくは、［ユーザーズガイド コピー機能編］をごらんください。

3.1　コピー操作の流れ

コピーをとるときの操作の流れを説明します。

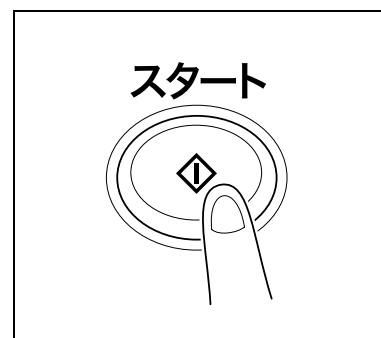
1 **操作パネル**の**コピー**を押し、**拡大表示**を押します。
コピー機能の拡大表示画面が表示されます。

2 原稿をセットします。
詳しくは、2-13 ページをごらんください。

3 必要に応じて、各機能の設定をします。

➔ 基本設定については、3-4 ページをごらんください。
➔ 原稿設定については、3-13 ページをごらんください。

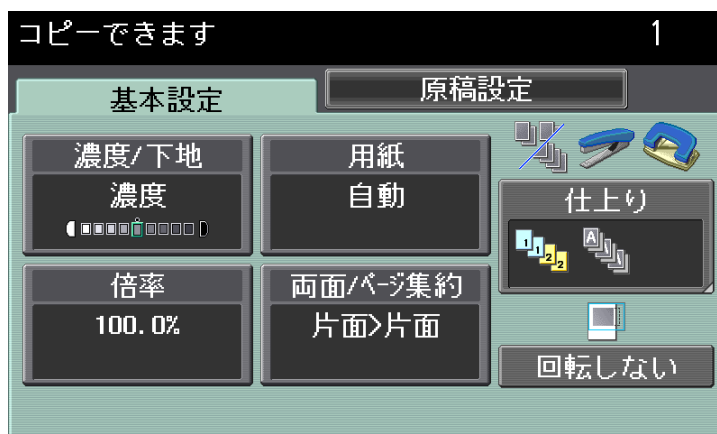
4 **テンキー**でコピー部数を入力します。
➔ コピー部数を間違えて入力した場合は **C** を押し、再度入力しなおします。

5　**スタート**を押します。

原稿が読込まれコピーされます。

➔ コピーを一時停止する場合は、**ストップ**を押します。

➔ ジョブの印刷中に［コピー予約できます］と表示されたら、次の原稿の読込みができます。

参考

- 各機能には組合わせて設定できないものがあります。組合わせできない操作を行った場合の動作には、以下の 2 種類があります。
  - あとから設定したものが優先される。（先に設定したものが解除される）
  - 先に設定したものが優先される。（警告メッセージが表示される）
- ユーザー設定により、［コピー予約］をキー表示できます。詳しくは、［ユーザーズガイド コピー機能編］をごらんください。
- コピーガード用のパターンが埋め込まれた原稿を読込んだ場合、コピーを中断しジョブを破棄します。
- パスワードコピーにてパスワードの埋め込まれた原稿を読込んだ場合、パスワードの入力後コピーを開始します。
- パスワードの異なる原稿を 1 度に複数枚読込んだ場合、原稿ごとにパスワードを入力する必要があります。

3.2 ［基本設定］

概要		参照
［濃度 / 下地］	原稿の状態に合わせて、コピー濃度や下地濃度を調整できます。	p. 3-4
［用紙］	コピーする用紙の種類、給紙トレイを設定できます。	p. 3-6
［倍率］	コピーする画像の倍率を設定できます。	p. 3-7
［両面 / ページ集約］	両面コピーやページ集約について設定できます。	p. 3-8
［仕上り］	コピーの仕分け方法や仕上り状態を設定できます。	p. 3-10
［回転しない］	セットされた用紙の向きに合わせて、画像を回転させずにコピーできます。	p. 3-12

3.2.1 ［濃度］

原稿の状態に合わせて、コピー濃度を調整します。また、下地に色が付いている原稿（新聞紙や再生紙など）や、裏面が透けてしまう薄い原稿などをコピーする場合に、下地の濃度を調整できます。

➔ ［基本設定］ ▸▸ ［濃度 / 下地］を押します。

設定	
［うすく］	キーを押すごとに 1 段階ずつ濃度が薄くなります
［ふつう］	中央（標準値）に戻ります。
［こく］	キーを押すごとに 1 段階ずつ濃度が濃くなります。

設定

［下地調整］	［裏写り除去］	原稿の裏写りを除去します。通常は［裏写り除去］を選択します。	
	［黄ばみ除去］	原稿の下地に色が付いている場合などに、下地を除去する調整をしてコピーできます。	
	［下地調整レベル］	［うすく］	キーを押すごとに 1 段階ずつ下地の濃度が薄くなります。
		［ふつう］	右から 3 番目（標準値）に戻ります。
		［こく］	キーを押すごとに 1 段階ずつ下地の濃度が濃くなります。
		［自動］	下地色の濃度が自動的に検知され、最適な下地濃度でコピーします。 濃度を［ふつう］に設定した場合のみ、［下地調整レベル］の［自動］が設定できます。また、［下地調整レベル］を［自動］に設定している場合でも、濃度を［ふつう］以外に設定すると、［下地調整レベル］の［自動］は解除されます。
［トップ画面へ］	変更された設定で基本設定画面に戻ります。		

3.2.2　［用紙］

コピーする用紙の種類とサイズを選択したり、各給紙トレイにセットされている用紙サイズや用紙種類の設定を変更したりできます。

✔　自動倍率と自動用紙は同時に設定できません。
✔　特別な用紙を給紙トレイにセットした場合には必ず用紙種類を設定してください。
✔　用紙サイズや用紙種類が正しく設定されていない場合、紙づまりや画像不良の原因となります。

➔　［基本設定］ ▸▸ ［用紙］を押します。

設定

［自動］	原稿サイズに合わせて自動で用紙が選択されます。	
［1］～［4］トレイ （**手差しトレイ**）	手動で用紙を指定できます。 ・　装着されているオプションによって、表示される給紙トレイが異なります。	
［設定変更］	選択した給紙トレイの用紙種類や用紙サイズを設定できます。	
	［用紙種類］	選択した給紙トレイの用紙種類を設定できます。給紙トレイによってセットできる用紙種類に制限があります。 ・　［片面専用用紙］を選択したトレイは、片面印刷時に優先的に選択されます。 ・　［両面 2 面目］（**手差しトレイ**のみ）：片面に印刷されている用紙を使用して印刷する場合に、用紙種類と合わせて選択します。
	［用紙サイズ］	選択した給紙トレイの用紙サイズを設定できます。 ・　［自動検出］：用紙サイズを自動的に検出します。 ・　［A 系・B 系］（**手差しトレイ**のみ）：A 系 B 系の定形サイズから、セットした用紙サイズを選択します。 ・　［インチ系］（**手差しトレイ**のみ）：インチ系の定形サイズから、セットした用紙サイズを選択します。 ・　［その他］（**手差しトレイ**のみ）：A 系 B 系、インチ系以外の定形サイズから、セットした用紙サイズを選択します。 ・　［不定形サイズ］（**手差しトレイ**のみ）：登録されている不定形サイズから、セットした用紙サイズを選択します。 不定形サイズが登録されていない場合は、設定できません。
［トップ画面へ］	変更された設定で基本設定画面に戻ります。	

給紙トレイの用紙が少なくなると、用紙残量を表すアイコンが表示されます。

	給紙トレイにセットされている用紙が、残り少ないことを示します。
	給紙トレイに用紙がセットされていないことを示します。

給紙トレイに普通紙以外の用紙が設定されている場合は、用紙種類を表すアイコンが表示されます。

［片面専用用紙］	［特殊紙］	［厚紙 1］	［厚紙 2］	［OHP フィルム］	［レターヘッド紙］
［色紙］	［封筒］	［ユーザー紙 1］	［ユーザー紙 2］	［ユーザー紙 3］	［ユーザー紙 4］
［両面 2 面目］［普通紙］	［両面 2 面目］［ユーザー紙 1］	［両面 2 面目］［ユーザー紙 2］			

参考

- ユーザー紙は、サービス実施店により坪量などが設定されている場合に設定できます。ユーザー紙について詳しくは、［ユーザーズガイド コピー機能編］をごらんください。

3.2.3　［倍率］

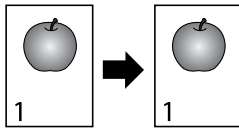
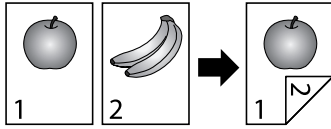
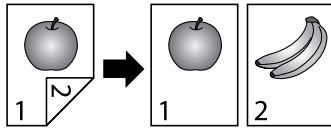
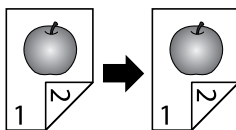
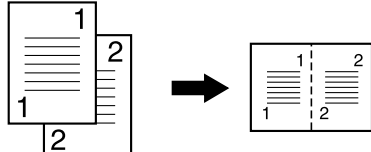
原稿の画像サイズを拡大、縮小できます。

✔ 自動倍率と自動用紙は同時に設定できません。
✔ 登録倍率は管理者の設定により変更できます。
✔ 自動倍率を指定し、原稿よりも大きな用紙に拡大コピーしたい場合は、用紙の向きに合わせて原稿をセットします。

➔ ［基本設定］ ▸▸ ［倍率］を押します。

設定	
［自動］	原稿サイズと選択した用紙サイズに合わせて、自動的に最適なコピー倍率が選択されます。
［等倍］	原稿の画像を原寸（等倍）でコピーできます。
［拡大］	あらかじめ設定されている拡大倍率から目的の倍率を選択し、拡大コピーします。
［縮小］	あらかじめ設定されている縮小倍率から目的の倍率を選択し、縮小コピーします。
［小さめ］	原稿サイズや選択した倍率より、画像をわずかに縮小してコピーします。 原稿の画像は欠損されることなく用紙の中央に配置されます。 他の設定倍率と組合わせて設定できます。
［フリー設定］	**テンキー**を使って 25.0%～ 400.0%の間でコピー倍率を入力します。
［登録倍率］	登録されている倍率から目的の倍率を選択し、コピーします。
［トップ画面へ］	変更された設定で基本設定画面に戻ります。

3.2.4 ［両面 / ページ集約］

原稿の読込み面と用紙の印刷面をそれぞれ片面にするか両面にするかを設定できます。

また、複数枚の原稿画像を 1 枚の用紙に縮小してコピーできます。

両面コピーやページ集約の機能を使用すると、用紙の使用枚数を節約できます。

➔ ［基本設定］▸▸［両面 / ページ集約］を押します。

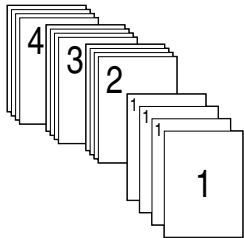
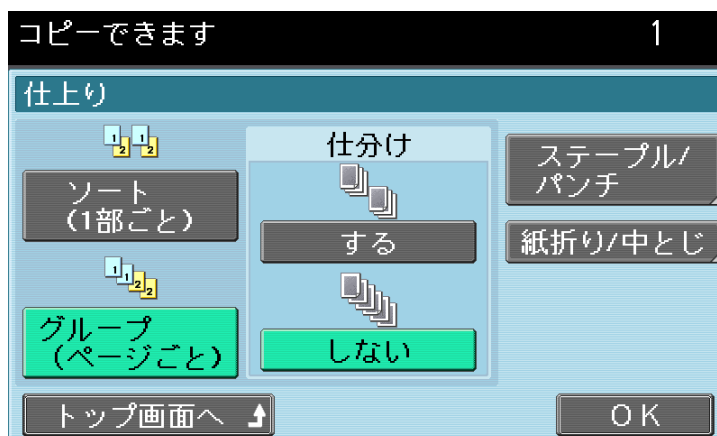
設定

［原稿＞コピー］	［片面＞片面］	
	［片面＞両面］	
	［両面＞片面］	
	［両面＞両面］	
［ページ集約］	［2in1］	2 枚の原稿画像を 1 枚の用紙にコピーできます。
	［しない］	ページ集約が設定されません。
［原稿セット方向］	両面原稿の読込みや両面コピー、集約コピーを設定する場合に、原稿セット方向を設定します。詳しくは 3-15 ページをごらんください。	
［原稿開き方向］	［両面>片面］または［両面>両面］を選択した場合に、原稿開き方向を設定します。詳しくは 3-13 ページをごらんください。	
［コピー開き方向］	［片面>両面］または［両面>両面］を選択した場合に、コピー開き方向を設定します。オモテ面とウラ面の画像配置が正しく設定されます。 ・［自動］： 左側または上側のコピー開き方向が、自動的に設定されます。原稿の長辺が 297 mm 以下の場合は、用紙の長辺にコピー開き方向が設定されます。原稿の長辺が 297 mm を超える場合は、用紙の短辺にコピー開き方向が設定されます。	
［トップ画面へ］	変更された設定で基本設定画面に戻ります。	

3.2.5 ［仕上り］

コピーを**排紙トレイ**に排紙するときの仕分け方法や仕上りの状態を設定できます。

✔ ステープル機能はオプションの**フィニッシャー FS-527** または**フィニッシャー FS-529** が装着されている場合に使用できる機能です。
✔ パンチ機能は、オプションの**フィニッシャー FS-527** に**パンチキット PK-517** が装着されている場合に使用できる機能です。
✔ 中折りおよび中とじ機能は、オプションの**フィニッシャー FS-527** に**中綴じ機 SD-509** が装着されている場合に使用できる機能です。
✔ ［ステープル］と［仕分け］は組合わせて使用できません。
✔ ［中折り］［中とじ］は［仕分け］［ステープル］［パンチ］と組合わせて使用できません。

➔ ［基本設定］ ▸▸ ［仕上り］を押します。

<**フィニッシャー FS-527**、**パンチキット PK-517**、**中綴じ機 SD-509** が装着されている場合>

参考
- 装着されているオプションによって、表示される画面が異なります。

設定

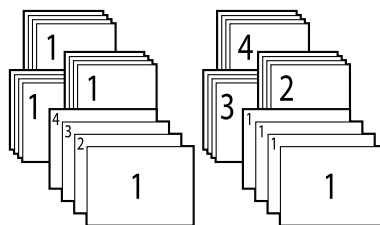
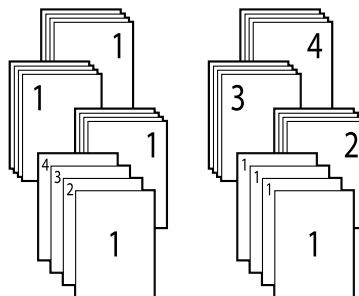
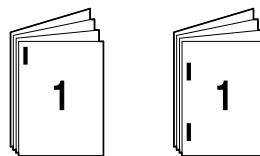
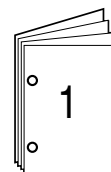
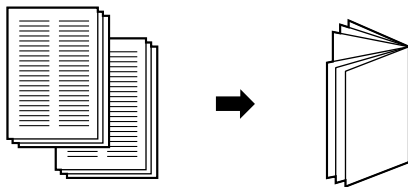
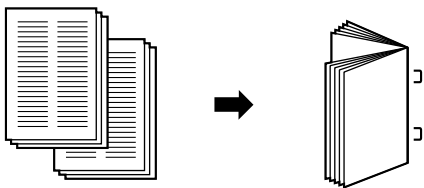
［ソート（1 部ごと）］	複数枚の原稿を複数部コピーする場合に、部数ごとに複数枚コピーできます。
［グループ（ページごと）］	複数枚の原稿を複数部コピーする場合に、ページごとに複数枚コピーできます。

設定

<table>
<tr><td colspan="2">［仕分け］</td><td>複数枚の原稿を複数部数コピーする場合に、コピーのまとまりを区別できるように排紙するかどうか選択します。
・ フィニッシャー FS-527 、フィニッシャー FS-529 またはセパレーター JS-505 が装着されていない場合：
以下の条件を満たすと、コピーの完了した用紙を交互に仕分けして排紙します。
A4、B5 または 8-1/2 × 11 の用紙を使用する
サイズと種類の同じ用紙を 方向と 方向にセットする
用紙／サイズ機能で自動用紙を設定する

・ フィニッシャー FS-527 、フィニッシャー FS-529 またはセパレーター JS-505 が装着されている場合：
コピーの完了した用紙をシフトして（ずらして）排紙します。

</td></tr>
<tr><td rowspan="2">［ステープル / パンチ］</td><td colspan="2">［ステープル］：
コピーした用紙のコーナーまたは 2 点をステープルでとじて排紙できます。

［パンチ］：
コピーした用紙にパンチ穴（とじ穴）をあけて排紙できます。お住まいの国によって、表示されるパンチ穴の数は異なります。
</td></tr>
<tr><td>［位置指定］</td><td>ステープルやパンチの位置を設定します。
・ ［自動］：
左側または上側のステープルまたはパンチ位置が、自動的に設定されます。
原稿の長辺が 297 mm 以下の場合は、用紙の長辺にステープルまたはパンチ位置が設定されます。
原稿の長辺が 297 mm を超える場合は、用紙の短辺にステープルまたはパンチ位置が設定されます。
・ ［自動］によりステープルまたはパンチ位置を指定する場合は、必ず原稿の天部が奥側になるようにセットしてください。
・ 必要に応じて［原稿セット方向］を押し、原稿のセットされている向きを指定します。</td></tr>
</table>

設定

［紙折り / 中とじ］	［中折り］	用紙の中央を 2 つ折りにして排紙します。
	［中とじ］	用紙の中央をステープルでとじて排紙します。
［トップ画面へ］	変更された設定で基本設定画面に戻ります。	

参照

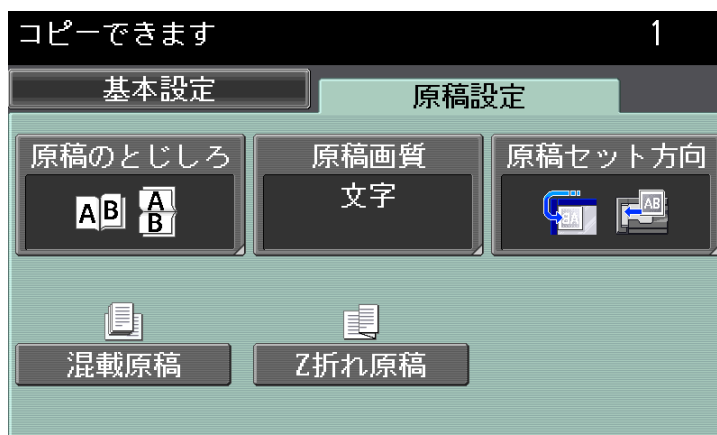
中折り、中とじ、ステープル、パンチができる用紙については、［ユーザーズガイド コピー機能編］をごらんください。

3.2.6 ［回転しない］

セットされた用紙の向きに合わせて画像を回転させずにコピーできます。

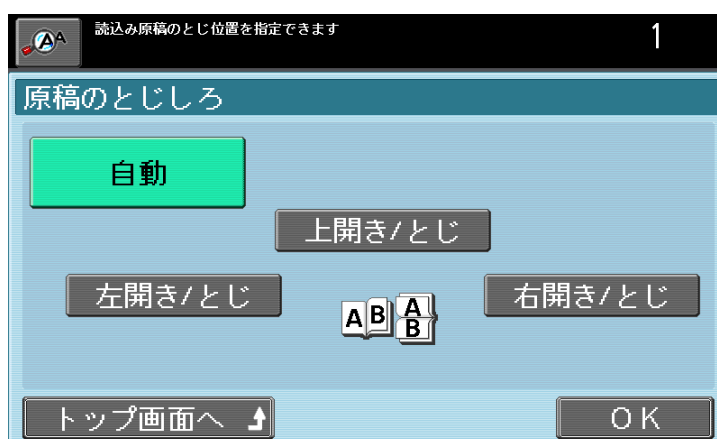
➔ ［基本設定］ ▸▸ ［回転しない］を押します。

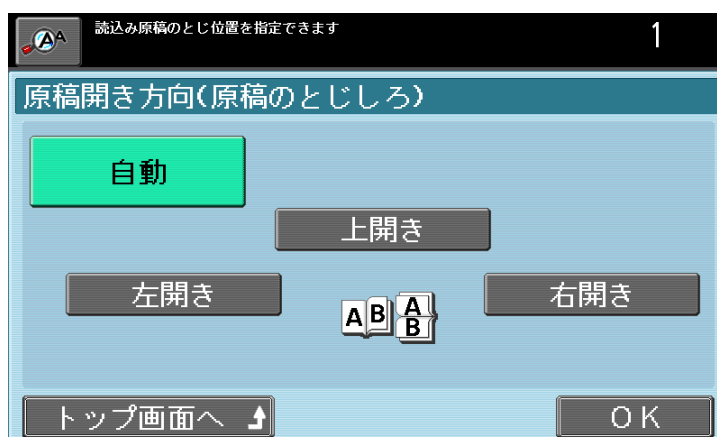
➔ 設定を中止する場合は、再度［回転しない］を押し、反転表示を解除します。

3.3 [原稿設定]

概要		参照
[原稿のとじしろ]	両面原稿を読込んでコピーする場合、原稿画像の上下が逆になってコピーされないように原稿開き方向（原稿のとじしろ）を指定してコピーできます。	p. 3-13
[原稿画質]	原稿の画像タイプに合わせて機能を選択し、よりよいコピー画質に調整します。	p. 3-14
[原稿セット方向]	両面原稿を読込んでコピーする場合や両面コピー、集約コピーをする場合に、ADF や**原稿ガラス**にセットした原稿のセット方向を設定します。	p. 3-15
[混載原稿]	サイズの異なる複数枚の原稿を一度に ADF にセットし読込むことができます。	p. 3-16
[Z 折れ原稿]	折りぐせのある原稿を ADF にセットしコピーする場合に、原稿サイズを正確に検知してコピーできます。	p. 3-16

3.3.1 [原稿のとじしろ] ／ [原稿開き方向]（原稿のとじしろ）

両面原稿をセットする場合に、原稿のとじしろ位置を設定します。原稿ウラ面の天部（上側）が正しく設定されます。

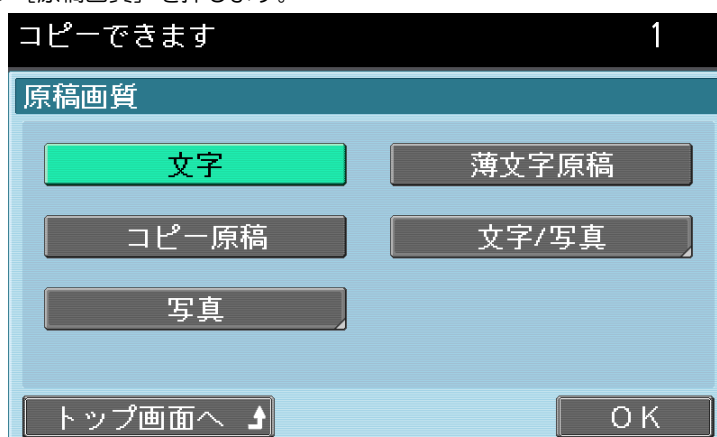
➔ [原稿設定] ►► [原稿のとじしろ] を押します。

➔ または、［基本設定］ ►► ［両面 / ページ集約］ ►► ［原稿開き方向］を押します。

読込み原稿のとじ位置を指定できます 1
原稿開き方向(原稿のとじしろ)
自動
上開き
左開き
右開き
トップ画面へ
ＯＫ

設定

［自動］	上側または左側の原稿のとじしろが自動で設定されます。 原稿の長辺が 297mm 以下の場合は、原稿の長辺にとじしろが設定されます。 原稿の長辺が 297mm を超える場合は、原稿の短辺にとじしろが設定されます。
［左開き / とじ］ ［左開き］	原稿の左側にとじしろのある原稿をセットした場合に選択します。
［上開き / とじ］ ［上開き］	原稿の上側にとじしろのある原稿をセットした場合に選択します。
［右開き / とじ］ ［右開き］	原稿の右側にとじしろのある原稿をセットした場合に選択します。
［トップ画面へ］	変更された設定で基本設定画面に戻ります。

3.3.2 ［原稿画質］

原稿画質（原稿の文字や画像の種類）を選択してコピーすると、よりよい画質のコピー結果が得られます。

➔ ［原稿設定］ ►► ［原稿画質］を押します。

設定

［文字］	文字のみで構成された原稿からコピーするのに適した機能です。コピーされた文字のエッジをシャープに再現し、読みやすい画像が得られます。
［薄文字原稿］	文字のみで構成された原稿で、原稿の濃度が薄い文字（鉛筆原稿など）からコピーするのに適した機能です。コピーされた文字の濃度を濃く再現し、読みやすい文字が得られます。
［コピー原稿］	本機で印刷した画像（原稿）からコピーするのに適した機能です。

設定

［文字 / 写真］	文字と写真が混在する原稿から、コピーするのに適した機能です。 ・［印画紙写真］： 文字と写真が混在する原稿の写真部分が、印画紙に印刷されている場合に適した機能です。滑らかなコピー画像が得られます。 ・［印刷写真］： 文字と写真が混在するパンフレットやカタログなどの印刷された原稿から、コピーするのに適した機能です。
［写真］	写真（ハーフトーン）のみの原稿から、コピーするのに適した機能です。 ・［印画紙写真］： 原稿の写真部分が、印画紙に印刷されている場合に適した機能です。通常の機能では再現できないハーフトーンの原稿画像（写真など）を、可能なかぎり再現します。滑らかなコピー画像が得られます。 ・［印刷写真］： パンフレットやカタログなどの印刷された原稿から、コピーするのに適した機能です。通常の機能では再現できないハーフトーンの原稿画像（写真など）を、可能なかぎり再現します。
［トップ画面へ］	変更された設定で基本設定画面に戻ります。

3.3.3 ［原稿セット方向］

両面原稿からのコピー、両面コピーや集約コピーなどをする場合に、原稿のセット方向を設定します。ページ順やオモテ面とウラ面の画像配置が正しく設定されます。

➔ ［原稿設定］ ▸▸ ［原稿セット方向］を押します。

➔ または、［基本設定］ ▸▸ ［両面 / ページ集約］ ▸▸ ［原稿セット方向］を押します。

設定

	原稿の天部（上側）を奥側にしてセットした場合に選択します。
	原稿の天部（上側）を手前側にしてセットした場合に選択します。
	ADF に原稿の天部（上側）を左側にしてセットした場合に選択します。 **原稿ガラス**上に原稿の天部（上側）を右側にセットした場合に選択します。
	ADF に原稿の天部（上側）を右側にセットした場合に選択します。 **原稿ガラス**上に原稿の天部（上側）を左側にセットした場合に選択します。
［トップ画面へ］	変更された設定で基本設定画面に戻ります。

3.3.4　［混載原稿］

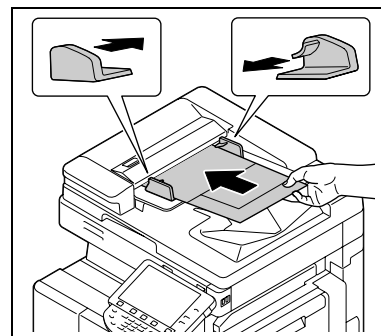
サイズの異なる複数枚の原稿を 1 度に ADF にセットし読込むことができます。

原稿と同じサイズの用紙にコピーしたい場合は、倍率画面で［等倍］、用紙画面で［自動］を選択します。
全ての原稿を同じサイズの用紙にコピーしたい場合は倍率画面で［自動］、用紙画面で印刷したいサイズを選択します。

重要
全ての原稿は ADF の左側と奥側を基準にしてセットしてください。

✔　［混載原稿］は、ADF が装着されている場合に、使用できる機能です。

1　ADF の**ガイド板**を最も大きな原稿サイズに合わせます。

2　原稿のオモテ面を上にして、原稿を読込み順に ADF にセットします。

3　［原稿設定］▸▸［混載原稿］を押します。

➔　設定を中止する場合は、再度［混載原稿］を押し、反転表示を解除します。

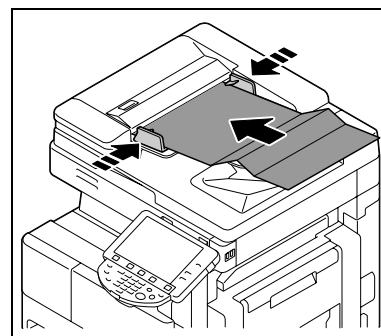
参照
混載原稿で使用できる定形紙の組合わせについて詳しくは、［ユーザーズガイド コピー機能編］をごらんください。

3.3.5　［Z 折れ原稿］

折りぐせのある原稿を ADF にセットしコピーする場合に、原稿サイズを正確に検知してコピーできます。

重要
折りぐせのついた原稿は、ADF にセットする前に伸ばしてください。伸ばさずにコピーをすると、紙づまりの原因になります。

✔　1 枚目の原稿サイズ長を検知し、それより後は同じサイズとして読込みます。
✔　［Z 折れ原稿］は、ADF が装着されている場合に、使用できる機能です。

1　原稿を ADF にセットします。

2　［原稿設定］▸▸［Z 折れ原稿］を押します。

➔　設定を中止する場合は、再度［Z 折れ原稿］を押し、反転表示を解除します。

参考

- 原稿をセットする前に設定を行った場合は、原稿をセットするようメッセージが表示されます。

4 ファクス / スキャン機能の使いかた

4　ファクス / スキャン機能の使いかた

拡大表示画面での、基本的なファクス / スキャン送信のしかたについて説明します。

参照
ファクス操作やスキャン操作について詳しくは、[ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編] をごらんください。

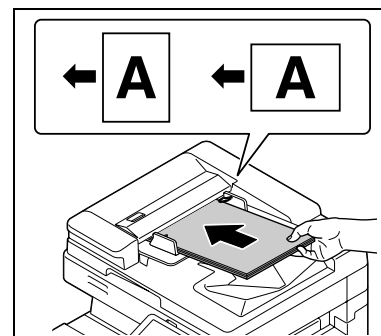
4.1　ファクス / スキャン操作の流れ

ファクス / スキャン操作をする操作の流れを説明します。

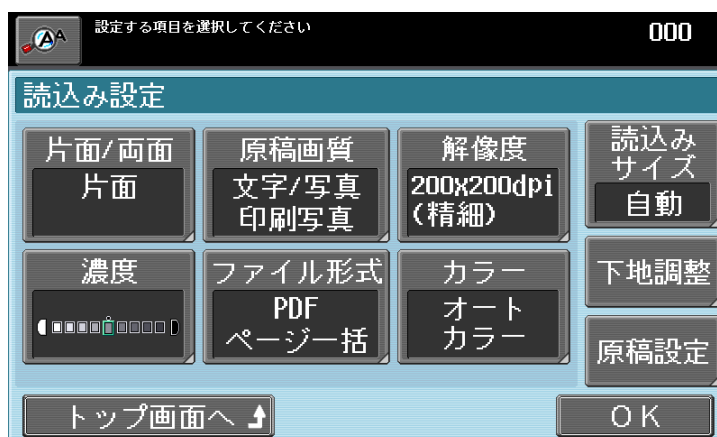
✔ あらかじめ、設定メニューの宛先登録、管理者設定のファクス設定、ネットワーク設定、宛先登録を行ってください。
詳しくは、[ユーザーズガイド ネットワーク管理者編]、[ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編] をごらんください。

1 **操作パネル**の**ファクス / スキャン**を押し、**拡大表示**を押します。

ファクス / スキャン機能の拡大表示画面が表示されます。

2 原稿をセットします。
原稿のセットのしかたについては、2-13 ページをごらんください。

3 宛先を指定します。

➔ 宛先の指定については、4-4 ページをごらんください。
➔ 宛先を間違えた場合は、C を押し、指定しなおします。

4 必要に応じて、読込み内容の設定をします。

➔ 読込み内容の設定については、4-9 ページをごらんください。
➔ 設定を取消す場合は、**リセット**を押し、設定しなおします。

5 **スタート**を押します。

原稿が読込まれ送信されます。
➔ 読込みを一時停止する場合は、**ストップ**を押します。

参考
- 各機能には組合わせて設定できないものがあります。組合わせできない操作を行った場合の動作には、以下の 2 種類があります。
- あとから設定したものが優先される。（先に設定したものが解除される）
- 先に設定したものが優先される。（警告メッセージが表示される）
- コピーガード用のパターンが埋め込まれた原稿を読込んだ場合、読込みを中断しジョブを破棄します。
- パスワードコピーにてパスワードの埋め込まれた原稿を読込んだ場合、パスワードの入力後送信を開始します。
- パスワードの異なる原稿を 1 度に複数枚読込んだ場合、原稿ごとにパスワードを入力する必要があります。

4.2 宛先設定

読込んだデータの送信方法や、送信宛先の設定のしかたを説明します。

送信方法

読込んだデータを送信するには以下の方法があります。

ネットワークスキャン機能	E-mail 送信	指定した電子メールアドレスに、読込んだデータを添付ファイルとして送信できます。
	ファイル送信（FTP）	FTP サーバーのあるネットワーク環境で、読込んだデータをネットワーク上の FTP サーバー内の指定したフォルダーへ送信できます。高解像度のデータなど、容量の大きなデータの送信に適しています。
	ファイル送信（SMB）	読込んだデータをネットワーク上の特定のコンピューターに直接送信します。 ファイル送信（SMB）を行うには、データを受信するコンピューターに Windows の共有ファイル設定をあらかじめ行ってください。
	ファイル送信（WebDAV）	WebDAV サーバーのあるネットワーク環境で、読込んだデータをネットワーク上の WebDAV サーバー内の指定したフォルダーへ送信できます。 WebDAV は HTTP の拡張仕様であるため、HTTP のセキュリティー技術をそのまま流用できます。WebDAV サーバーとの通信を SSL で暗号化して、より安全にファイルを送信できます。
ファクス機能	ファクス送信	読込んだデータを相手先のファクス番号を指定して送信します。カラーでの送受信はできません。
ネットワークファクス機能	インターネットファクス送信	読込んだデータを電子メールの添付ファイル（TIFF 形式）として、イントラネット（企業内ネットワーク）やインターネットを経由して送信します。カラー、グレースケール、白黒 2 値でのファクス送信ができます。本機は、インターネットファクスで文書を受信し、モノクロでプリントもできます。 白黒 2 値の文書を受信した場合は、プリントできますが、カラーやグレースケールの原稿を受信した場合は、データは破棄され、プリントされません。
	IP アドレスファクス送信	IP ネットワーク上で通信可能なファクスです。読込んだデータを、相手先の IP アドレス（ホスト名）または電子メールアドレスを指定して送信します。イントラネット内でのみ使用可能です。カラー、グレースケール、白黒 2 値でのファクス送信ができます。本機は、IP アドレスファクスで文書を受信し、モノクロでプリントもできます。

送信宛先の設定

送信宛先を設定するには以下の方法があります。

参照

拡大表示画面で送信宛先を設定する場合は、あらかじめ設定メニューから送信宛先を登録しておく必要があります。ファクス送信の宛先もあらかじめ登録しておくと便利です。

登録方法について詳しくは、［ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編］をごらんください。

概要		参照
［登録宛先］	あらかじめ本機に登録した宛先の中から目的の宛先を選択します。	p. 4-5
［履歴から］	送信履歴から目的の宛先を選択します。	p. 4-6
［LDAP 宛先］	LDAP サーバーに登録した宛先をキーワードや条件から検索し、目的の宛先を選択します。	p. 4-7
［ダイアル入力］	ファクス送信する場合に、ファクス番号または宛先登録番号を入力し、目的の宛先を設定します。	p. 4-8

参考

- 同時に複数の宛先を指定できます。
- 手動でファクスの送信をする場合に、［オフフック］を使用します。詳しくは、［ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編］をごらんください。

- インターネットファクス送信、IP アドレスファクス送信では、［オフフック］は使用できません。
- 管理者設定で［宛先 2 度入力機能（送信）］が設定されている場合は、［オフフック］を使用できません。
- オプションの**セキュリティーキット SC-507** 装着時、管理者設定の［セキュリティー詳細］－［コピーガード］または［パスワードコピー］を［する］に設定している場合、［オフフック］は表示されません。

4.2.1　［登録宛先］

あらかじめ本機に登録した宛先の中から目的の宛先を選択します。

➔ ［登録宛先］を押します。

設定	
［登録宛先］	登録宛先がキーで表示され、目的の宛先を選択できます。

設定

［その他宛先］	送信方法や宛先名から、本機に登録した宛先を検索できます。 ・ ［宛先種類］：送信方法から目的の宛先を検索できます。グループ宛先も選択できます。 ・ ［検索文字］：宛先登録時に設定した検索文字別に宛先を検索できます。
［読込み設定］	読込みについてさまざまな設定ができます。詳しくは、4-9 ページをごらんください。
［宛先確認］	選択した宛先が表示され、送信する前に宛先を確認できます。詳しくは、4-17 ページをごらんください。

4.2.2 ［履歴から］

送信したことがある宛先の中から目的の宛先を選択します。

➔ ［履歴から］を押します。

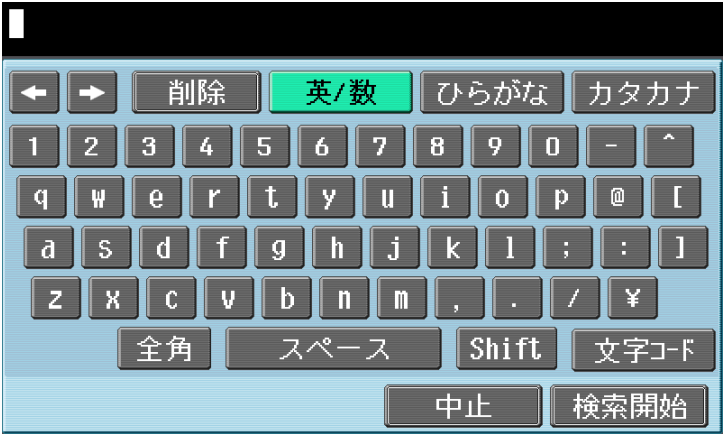
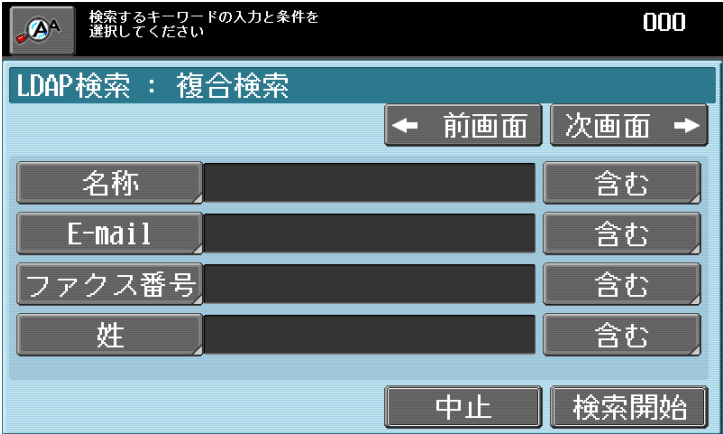
設定

［履歴から］	日時の新しいものから順番に、送信済みの宛先が 5 件まで表示され、その中から目的の宛先を選択できます。
［読込み設定］	読込みについてさまざまな設定ができます。詳しくは、4-9 ページをごらんください。
［宛先確認］	選択した宛先が表示され、送信する前に宛先を確認できます。詳しくは、4-17 ページをごらんください。

4.2.3　［LDAP 宛先］

LDAP サーバーに登録した宛先をキーワードや条件から検索し、目的の宛先を選択する場合に、このタブを使用します。

✔　あらかじめ、管理者設定で LDAP 使用を有効に設定し、LDAP サーバーを登録しておく必要があります。LDAP の設定について詳しくは、［ユーザーズガイド ネットワーク管理者編］をごらんください。

➔　［LDAP 宛先］ ▸▸ ［単検索］を押します。

［LDAP 宛先］ ▸▸ ［複合検索］を押します。

参考

- LDAP サーバーが複数登録されている場合は、検索する LDAP サーバーを選択します。
- LDAP サーバーの設定により、認証が必要な場合があります。

設定

［単検索］	検索するキーワードを入力し、宛先を検索できます。名称、E-mail アドレス、ファクス番号など、登録されている項目の内容を入力します。	
［複合検索］	［名称］	項目ごとに検索キーワードを入力し、それぞれ、［含む］［同じ］［始まる］［終わる］の条件を選択します。複数の検索項目を組合わせて検索できます。
	［E-mail］	
	［ファクス番号］	
	［姓］	
	［名］	
	［都市名］	
	［会社名］	
	［組織名］	

4.2.4 ［ダイアル入力］

ファクス送信時にファクス番号または宛先登録番号を入力して目的の宛先を設定します。

➔ ［ダイアル入力］を押します。

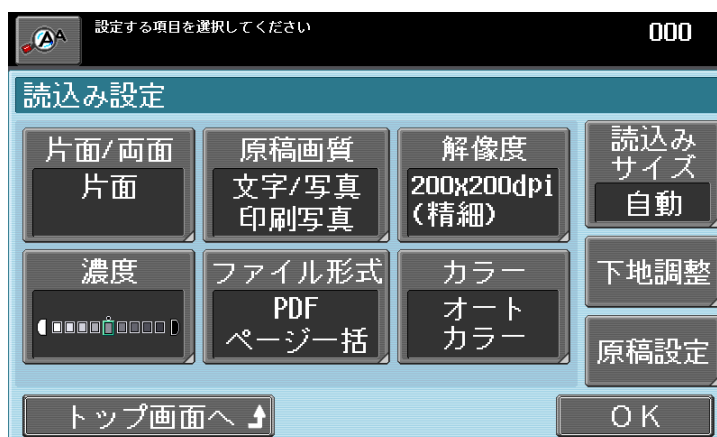
設定

［ダイアル入力］	表示された画面または**テンキー**で、ファクス番号を入力します。 入力を間違えた場合は、間違えた文字にカーソルを合わせて［削除］を押し、入力しなおします。 ・ ［トーン］： ダイアル（パルス）回線を使用している場合に、プッシュトーンを送出するために押します。ファクス情報サービスを利用する場合などに使用します。画面には［T］が表示されます。 ダイアル（パルス）回線の場合は、［✱］を使ってプッシュトーンに切換えることができます。 ・ ［ポーズ］： ダイアルに間をあけたいときに押します。［ポーズ］1 回で 1 秒の間隔を入力することができ、繰り返して入力することもできます。画面には［P］が表示されます。 PBX（構内交換機）接続が有効に設定されている場合は、内線から外線に発信するとき、より確実にダイアルするために、［0］などの外線番号のあとに［ポーズ］を押します。画面には［P］と表示されます。 ・ ［-］： ダイアルするときの区切り記号として入力します。ダイアルには影響がありません。画面には［-］が表示されます。
［次宛先］	ファクス番号または宛先登録番号を入力したあと、引き続き宛先を設定する場合に使用します。
［登録番号指定］	登録番号指定画面が表示されます。**テンキー**で宛先登録番号を入力し、［確定］を押します。
［トップ画面へ］	変更された設定で、登録宛先画面に戻ります。

参考

- 管理者設定で［宛先 2 度入力機能（送信）］が設定されている場合は、ファクス番号設定後に再度ファクス番号を入力する画面が表示されます。
- 管理者設定で［手動宛先入力］が禁止に設定されている場合は、番号入力ができません。［手動宛先入力］の設定について詳しくは、［ユーザーズガイド ネットワーク管理者編］をごらんください。
ユーザー認証が設定されている場合は、登録ユーザーごとに［手動宛先入力］を許可するかしないかが設定されます。ユーザーの登録について詳しくは、［ユーザーズガイド コピー機能編］をごらんください。

4.3 [読込み設定]

原稿の状態や送信の目的に合わせて、原稿読込みの詳しい内容を設定します。読込みデータを最適な状態で送信できます。

概要		参照
[片面 / 両面]	原稿を片面読込みするか両面読込みするかを選択します。	p. 4-9
[原稿画質]	原稿に描かれている内容に合わせて原稿の画質を選択します。	p. 4-10
[解像度]	原稿を読込むきめ細かさを選択します。	p. 4-11
[濃度]	原稿を読込む濃さを調整します。	p. 4-11
[ファイル形式]	読込みデータを保存するファイル形式を選択します。	p. 4-12
[カラー]	原稿を読込む色を選択します。	p. 4-13
[読込みサイズ]	原稿を読込むサイズを選択します。	p. 4-13
[下地調整]	下地に色が付いている原稿や裏写りする薄い原稿を読込む場合に、下地の除去を調整します。	p. 4-14
[原稿設定]	原稿をセットした向きを設定します。また、両面原稿をセットする場合に、原稿のとじしろ位置を設定します。	p. 4-15

4.3.1 [片面 / 両面]

原稿を片面読込みするか両面読込みするかを設定します。

➔ [読込み設定] ►► [片面 / 両面] を押します。

設定	
[片面]	片面原稿を読込む場合に選択します。
[両面]	両面原稿を読込む場合に選択します。

設定

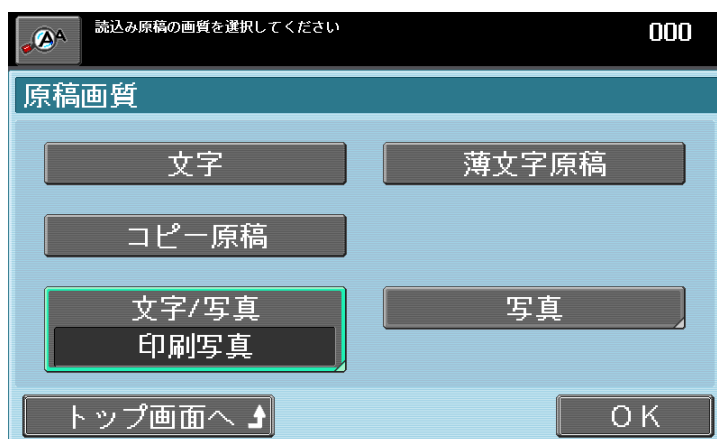
［表紙 + 両面］	1 枚目の原稿を表紙として片面読込みし、2 枚目以降の原稿を両面読込みする場合に選択します。
［トップ画面へ］	変更された設定で、登録宛先画面に戻ります。

参考

- 両面原稿を読込む場合は、原稿のセット方向と組合わせて設定することをおすすめします。原稿のセット方向については、4-15 ページをごらんください。

4.3.2 ［原稿画質］

原稿に記載されている要素に合わせて画質を設定できます。

➔ ［読込み設定］ ▸▸ ［原稿画質］を押します。

設定

［文字］	文字のみで構成された原稿を読込む場合に適しています。
［薄文字原稿］	鉛筆書きなど、薄く書かれた文字の原稿を読込む場合に適しています。
［コピー原稿］	コピーやプリンターで出力した、濃度の均一な原稿を読込む場合に適しています。
［文字 / 写真］	文字と写真（ハーフトーン）が混ざった原稿を読込む場合に適しています。 ［印画紙写真］： 文字と写真が混在する原稿の写真部分が、印画紙に印刷されている場合に適した機能です。 ［印刷写真］： 文字と写真が混在するパンフレットやカタログなど、印刷された原稿に適した機能です。
［写真］	写真（ハーフトーン）のみの原稿を読込む場合に適しています。 ［印画紙写真］： 原稿の写真部分が、印画紙に印刷されている場合に適した機能です。 ［印刷写真］： パンフレットやカタログなど、印刷された原稿に適した機能です。
［トップ画面へ］	変更された設定で、登録宛先画面に戻ります。

4.3.3 ［解像度］

原稿を読込むきめ細かさを設定できます。解像度を高くするほどより細かくきれいに読込まれ、ファイルサイズが大きくなります。

➔ ［読込み設定］ ►► ［解像度］を押します。

設定

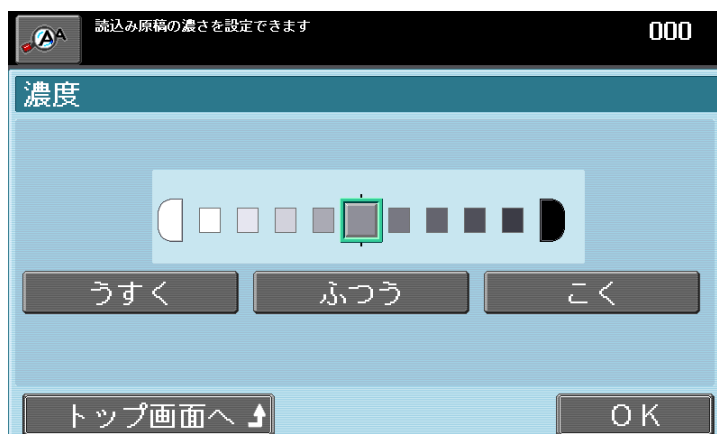
［200 × 100 dpi（普通）］	送信時間を短くする場合に選択します。
［200 × 200 dpi（精細）］	通常の原稿を読込む場合に選択します。
［300 × 300 dpi］	通常の原稿をより高い解像度で読込む場合に選択します。
［400 × 400 dpi（高精細）］	小さな文字や図などが描かれた原稿を読込む場合に選択します。
［600 × 600 dpi（超高精細）］	精細な図面や文字などが描かれた、特に細かい原稿を読込む場合に選択します。
［トップ画面へ］	変更された設定で、登録宛先画面に戻ります。

参考

- より精細に読込むほど送信する情報量が増え、送信時間が長くなります。
  E-mail に添付する場合やサーバーに送信する場合は、データ容量に制限がないかをご確認ください。
- G3 ファクス、インターネットファクスでの送信時に［300 × 300 dpi］または［200 × 100 dpi（普通）］を選択した場合は、自動的に 200 × 200 dpi に変換されて送信されます。
- ファクス送信で［600 × 600 dpi（超高精細）］や［400 × 400 dpi（高精細）］を選択しても、受信側にその解像度で受信をする機能がない場合は、相手側の受信能力に応じた解像度で送信されます。

4.3.4 ［濃度］

原稿を読込む濃さを調整します。

➔ ［読込み設定］ ►► ［濃度］を押します。

設定	
［うすく］	1 回押すごとに 1 段階ずつ濃度が薄くなります。
［ふつう］	濃度が初期値に戻ります。
［こく］	1 回押すごとに 1 段階ずつ濃度が濃くなります。
［トップ画面へ］	変更された設定で、登録宛先画面に戻ります。

4.3.5 ［ファイル形式］

読込みデータを保存するファイル形式を選択します。送信の目的に合わせて、適切なファイル形式を設定できます。

✔ 保存するファイル形式は［カラー］の設定によって選択できない場合があります。［ファイル形式］と［カラー］の組合わせについて詳しくは、［ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編］をごらんください。

✔ ファクス送信およびインターネットファクス送信の場合は、ファイル形式が TIFF に固定されます。

➔ ［読込み設定］ ▸▸ ［ファイル形式］を押します。

設定	
［PDF］	PDF 形式で保存する場合に選択します。
［コンパクト PDF］	高圧縮率の PDF 形式で保存する場合に選択します。フルカラーでの読込みでファイルサイズをおさえたい場合などに使用します。
［TIFF］	TIFF 形式で保存する場合に選択します。
［JPEG］	JPEG 形式で保存する場合に選択します。
［XPS］	XPS 形式で保存する場合に選択します。
［コンパクト XPS］	高圧縮率の XPS 形式で保存する場合に選択します。フルカラーでの読込みでファイルサイズをおさえたい場合などに使用します。
［ページ一括］	読込んだ全ての原稿をまとめてひとつのファイルを作成します。ファイル形式 JPEG と同時に選択できません。
［ページ分割］	指定したページごとにファイルを分割して送信できます。1 ファイルに保存するページ数を**テンキー**で指定します。
［トップ画面へ］	変更された設定で、登録宛先画面に戻ります。

4.3.6 ［カラー］

原稿を読込むカラーを設定します。

✔ カラーは［ファイル形式］の設定によって選択できない場合があります。［ファイル形式］と［カラー］の組合わせについて詳しくは、［ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編］をごらんください。

✔ ファクス送信の場合は、カラーを選択しても［白黒 2 値］に固定されます。

➔ ［読込み設定］ ▸▸ ［カラー］を押します。

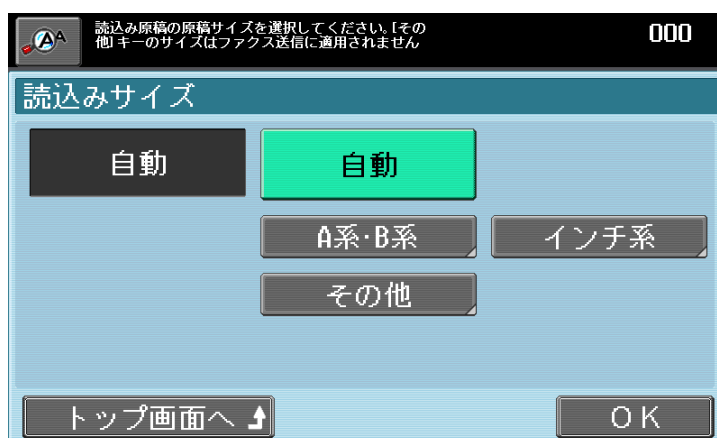
設定

［オートカラー］	原稿の色を自動的に判別し、原稿に合わせて読込みます。
［フルカラー］	フルカラーで読込みます。
［グレースケール］	白黒写真などのハーフトーンが多い原稿を読込む場合に適しています。
［白黒 2 値］	線画など、白黒の境がはっきりしている原稿を読込む場合に適しています。
［トップ画面へ］	変更された設定で、登録宛先画面に戻ります。

4.3.7 ［読込みサイズ］

原稿を読込むサイズを選択します。不定形サイズの原稿や大きなサイズの原稿の一部など、読込みサイズを指定して読込めます。

ファクス送信などで、相手先のファクシミリにセットされている用紙の幅が送信した原稿よりも小さい場合に、自動的に縮小せずに原寸で送信できます。

➔ ［読込み設定］ ▸▸ ［読込みサイズ］を押します。

設定

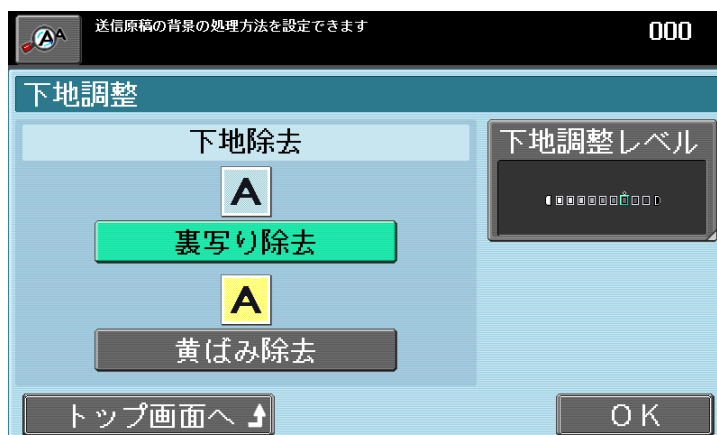
［自動］	セットした原稿の 1 枚目のサイズが自動的に検知されます。
［A 系・B 系］	A 系・B 系の定形サイズから、読込みサイズを選択します。

設定

［インチ系］	インチ系の定形サイズから、読込みサイズを選択します。
［その他］	A 系・B 系、インチ系以外の定形サイズから、読込みサイズを選択します。
［トップ画面へ］	変更された設定で、登録宛先画面に戻ります。

4.3.8　［下地調整］

新聞や再生紙など下地に色が付いている原稿や、裏面が透ける薄い原稿などを読込む場合に、下地の濃度を調整できます。

➔　［読込み設定］ ▸▸ ［下地調整］を押します。

設定

［裏写り除去］	原稿の裏写りを除去します。通常は［裏写り除去］を選択します。	
［黄ばみ除去］	下地に色が付いている原稿を読込む場合などに、下地の濃度を調整します。	
［下地調整レベル］	［うすく］	キーを押すごとに 1 段階ずつ下地の濃度が薄くなります。
	［ふつう］	右から 3 番目（標準値）に戻ります。
	［こく］	キーを押すごとに 1 段階ずつ下地の濃度が濃くなります。
	［自動］	下地色の濃度を自動的に検知し、最適な下地濃度で読込みます。
［トップ画面へ］	変更された設定で登録宛先画面に戻ります。	

4.3.9　［原稿設定］

［原稿セット方向］と［原稿のとじしろ］の設定をします。セット方向ととじしろは、同時に組合わせて設定できます。

［原稿セット方向］

セットした原稿の天地左右の向きを設定できます。両面原稿を読込む場合に、原稿ウラ面の天部（上側）が正しく設定されます。

✔　ファクス機能の場合は、［原稿セット方向］は使用しません。

➔　［読込み設定］ ▸▸ ［原稿設定］ ▸▸ ［原稿セット方向］を押します。

設定

設定	説明
	原稿の天部（上側）を奥側にしてセットした場合に選択します。
	原稿の天部（上側）を手前側にしてセットした場合に選択します。
	ADF に原稿の天部（上側）を左側にしてセットした場合に選択します。 **原稿ガラス**上に原稿の天部（上側）を右側にセットした場合に選択します。
	ADF に原稿の天部（上側）を右側にセットした場合に選択します。 **原稿ガラス**上に原稿の天部（上側）を左側にセットした場合に選択します。
［トップ画面へ］	変更された設定で登録宛先画面に戻ります。

［原稿のとじしろ］

両面原稿をセットする場合に、原稿のとじしろ位置を設定します。原稿ウラ面の天部（上側）が正しく設定されます。

➔　［読込み設定］▸▸［原稿設定］▸▸［原稿のとじしろ］を押します。

設定

［自動］	上側または左側のとじしろ位置が設定されます。 原稿の長辺が 297 mm 以下の場合は、原稿の長辺にとじしろ位置が設定されます。 原稿の長辺が 297 mm を超える場合は、原稿の短辺にとじしろ位置が設定されます。
［左開き / とじ］	原稿の左側にとじしろがある場合に選択します。
［上開き / とじ］	原稿の上側にとじしろがある場合に選択します。
［トップ画面へ］	変更された設定で登録宛先画面に戻ります。

4.4　[宛先確認]

送信する前に設定した宛先を確認できます。

➔ [宛先確認] を押します。

設定

[宛先確認]	設定されている宛先と登録種別が一覧表示されます。
[宛先詳細]	目的の宛先を選択し、[宛先詳細] を押すと、選択した宛先の詳細が表示されます。
[削除]	目的の宛先を選択し、[削除] を押すと、選択した宛先を送信先から削除できます。
[トップ画面へ]	変更された設定で登録宛先画面に戻ります。

5 音声ガイド機能の使いかた

5 音声ガイド機能の使いかた

本機は、機能拡張により音声ガイド機能を利用できます。

音声ガイドは、おもに画面やキーの説明、キーに関連する動作の説明が音声で流れる機能です。拡大表示画面、ユニバーサル設定画面、ガイド画面で使用でき、操作の補助や誤操作の防止に役立ちます。

音声ガイドが有効な場合の操作について説明します。

参考

- 音声ガイドは拡張機能のひとつです。拡張機能を利用するには、オプションの**アップグレードキット UK-203** が必要です。音声ガイドを利用するには、本機にオプションのローカル接続キットを装着する必要があります。また **i-Option LK-104** を登録し有効化する必要があります。
- 拡張機能について詳しくは、［ユーザーズガイド 拡張機能編］をごらんください。**i-Option LK-104** を登録し有効化する方法について詳しくは、［すぐに使える操作ガイド］をごらんください。

5.1 音声ガイドの設定をする

音声ガイドの音量、音声速度を設定できます。

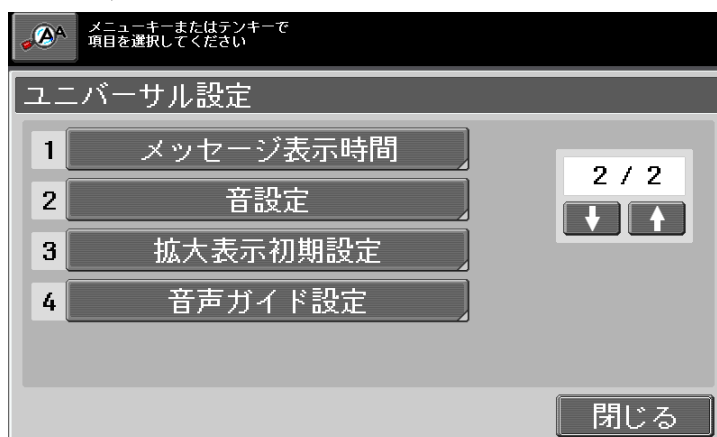
参照

音声ガイドの設定をするには、管理者設定で音声ガイド機能を有効にする必要があります。音声ガイド機能を有効にする方法について詳しくは、［ユーザーズガイド 拡張機能編］をごらんください。

5.1.1 ［音声ガイド設定］を表示する

音声ガイドの設定は、［ユニバーサル設定］で行います。

1 **ユニバーサル**を押し、［ユニバーサル設定］を表示します。

2 ［ユニバーサル設定］(2/2) で［音声ガイド設定］を押します。

音声ガイド設定画面が表示されます。

5.1.2 ［音声ガイド設定］

音声ガイドの音量、音声速度を設定します。

項目	説明
［する］／［しない］	音声ガイドを使用するかどうか設定します。 ［しない］に設定すると、音声ガイドを使用できません。
［音量］	音声ガイドの音量を設定します。 ［大きく］を押すと、音量が 1 段階大きくなります。 ［小さく］を押すと、音量が 1 段階小さくなります。 音声ガイド使用中は、**#**、**＊**を押すことで、いつでも音量を調整できます。
［音声速度］	音声ガイドの速度を設定します。 音声速度は、［速い］、［普通］、［遅い］の 3 段階で設定できます。

5.2 音声ガイドを開始・終了する

音声ガイドの開始、終了のしかたについて説明します。

5.2.1 音声ガイドを開始する

音声ガイドを開始する場合は、音声ガイド対応画面で**操作パネル**の**ガイド**を長押しします。

音声ガイドが始まると、音声ガイドを開始することを知らせる音声が流れ、画面上に音声カーソルが表示されます。

参考

- 音声ガイドは主に拡大表示画面、ユニバーサル設定画面、ガイド画面で利用できます。
- 音声ガイドに対応していない画面で**ガイド**を長押しした場合は、拡大表示画面へ誘導する音声が流れます。
- 音声ガイド使用中に音声ガイド非対応画面に移動した場合は、音声ガイド非対応画面であることを知らせる音声が流れます。
- 音声カーソルについて詳しくは、5-5 ページをごらんください。

5.2.2 音声ガイドを終了する

音声ガイドを終了する場合は、**操作パネル**の**ガイド**を長押しします。

参考

- ログインユーザーが音声ガイドを利用する場合は、本機からログアウトすると音声ガイドを終了します。
- オートリセットまたはシステムオートリセット機能が働いた場合は、音声ガイドを終了します。
- パワーセーブまたはウィークリータイマー機能で、節電モード（スリープモード、低電力モード）へ移行した場合は、音声ガイドを終了します。
- 主電源または副電源を OFF にした場合は、音声ガイドを終了します。

5.3 音声ガイド使用中の操作について

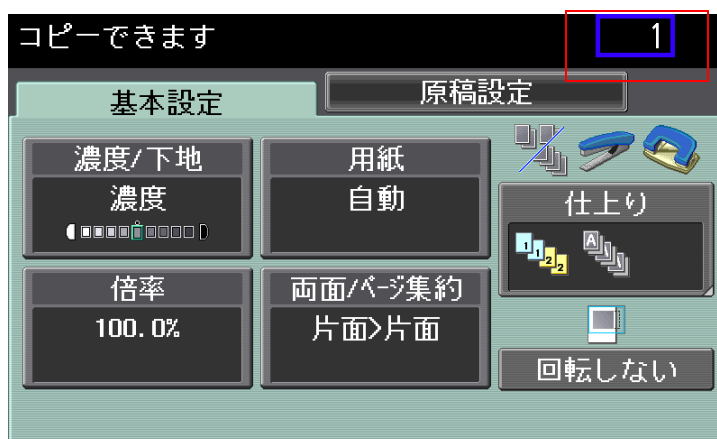
音声ガイド使用中の操作について説明します。

5.3.1 音声カーソル

音声ガイドを開始すると、音声ガイド対応画面で、音声を発声しているメニュー、キーおよび編集可能部分を一目で判別できるように音声カーソル（青枠）が表示されます。

また、**テンキー**による操作で音声カーソルを移動して選択および決定を行うことができます。

参考

- 音声ガイド非対応画面では、音声カーソルは表示されません。
- 音声カーソルは、**テンキー**の **4** または **6** で移動し、**5** で選択できます。

5.3.2 テンキーの操作

音声ガイド使用中に**テンキー**で様々な操作を行うことができます。

参考

- 表示中の画面によっては、使用できないキーがあります。使用できないキーを押した場合は、使用できないことを知らせる音声が流れます。

キー	動作
0	**テンキー**の動作の説明を読み上げます。
1	現在表示中の画面の説明を読み上げます。
2	拡大表示画面でコピー機能およびファクス / スキャン機能を表示している場合、現在表示している機能で設定可能な項目を読み上げます。
3	現在流れている音声を中断します。
4	音声カーソルを左へ移動します。
5	音声カーソルの位置のキーを選択します。
6	音声カーソルを右へ移動します。
7	拡大表示画面でコピー機能およびファクス / スキャン機能を表示している場合、現在表示している機能で設定されている項目を読み上げます。
8	直前に読み上げた内容を再度読み上げます。
9	現在選択されているキーを読み上げます。
#	音量が 1 段階大きくなります。 音声ガイド使用中は、**#**、**＊**を押すことで、いつでも音量を調整できます。
＊	音量が 1 段階小さくなります。 音声ガイド使用中は、**#**、**＊**を押すことで、いつでも音量を調整できます。

6 索引

6 索引

6.1 項目別索引

6.2 キー索引

ま行

や行

ら行

わ行

お問い合わせは

■ 販売店連絡先

《販売店 連絡先》

販売店名

電話番号

担当部門

担当者

■ 保守・操作・修理・サポートのお問い合わせ

この商品の保守・操作方法・修理・サポートについてのお問い合わせは、お買い上げの販売店、サービス実施店にご連絡ください。

《保守・操作・修理・サポートのお問い合わせ先》

TEL

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社

〒103-0023　東京都中央区日本橋本町1丁目5番4号

当社についての詳しい情報はインターネットでご覧いただけます。　http://bj.konicaminolta.jp

当社に関する要望、ご意見、ご相談、その他お困りの点などございましたら、お客様相談室にご連絡ください。
お客様相談室電話番号　フリーダイヤル：0120-805039（受付時間 ： 土、日、祝日を除く9:00〜12:00 / 13:00〜17:00）